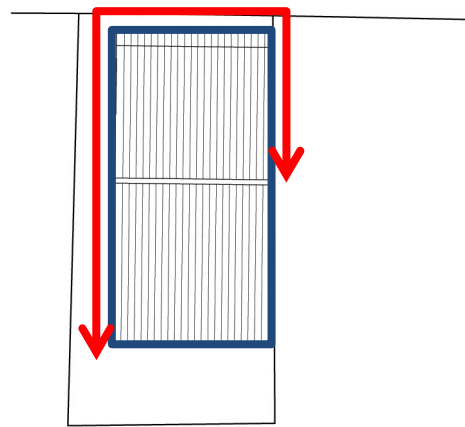
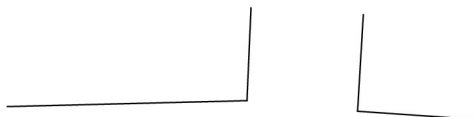
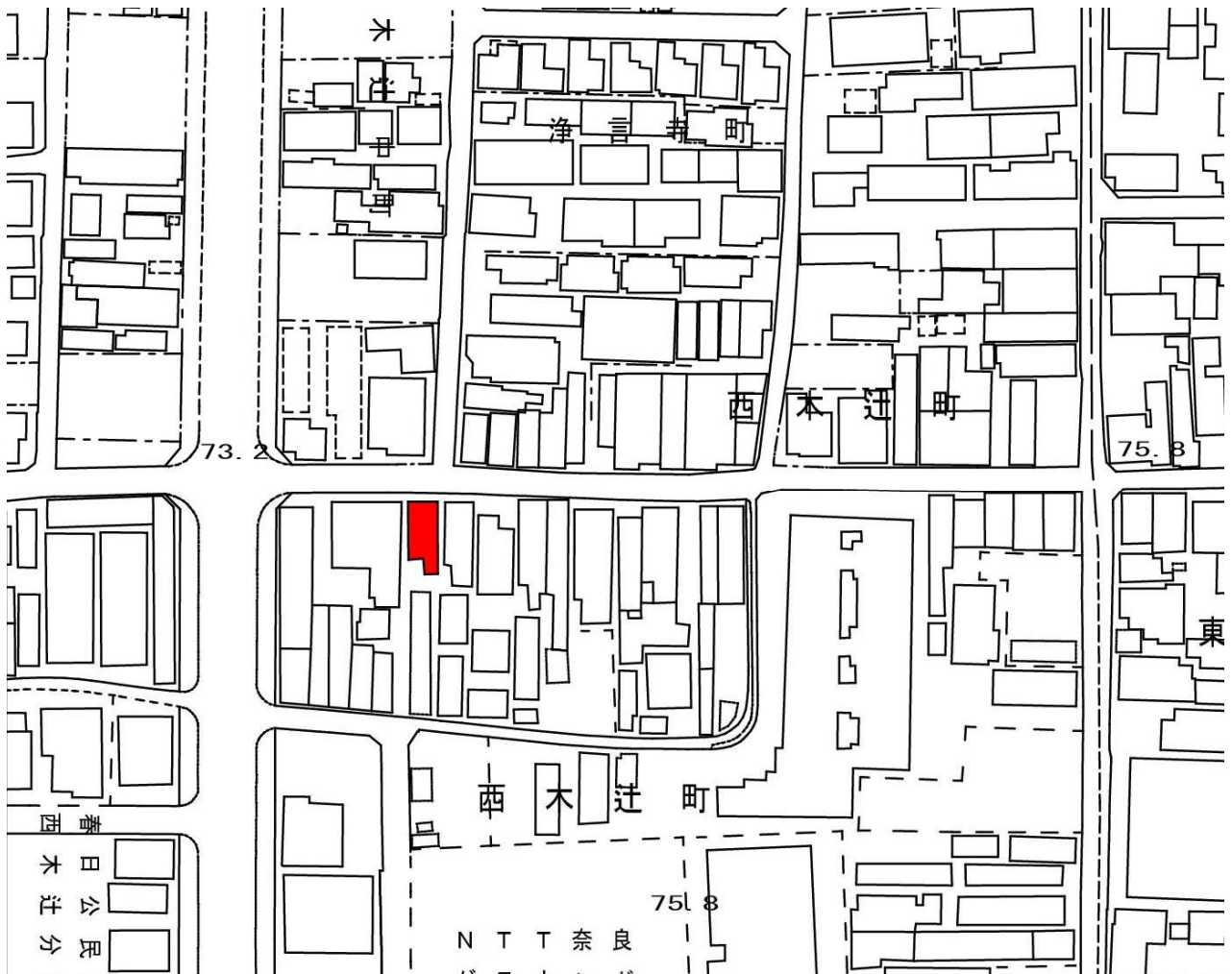


歴史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	33	名称	高瀬家町家
指定年月日	R6.3.12	所在地(指定地)	西木辻町 215-1、215-2
指定建造物	主屋	建築年代・概要	大正時代 木造平屋一部二階建、切妻造、平入、棧瓦葺
位置 ・ 歴史	<p>西木辻町は、江戸時代は奈良町の南西に隣接する木辻村で、興福寺領であった。木辻村は明治22年に奈良町に合併され、西木辻となった。大部分は農地だったが、町内東寄り、やすらぎの道の東側に位置する当地は、江戸時代から町場だった場所である。</p> <p>登記によると、当地は明治25年(1892)に高瀬家の所有となった。西隣の建物との間の細い路地は、かつて当地の南奥に建っていた建物群への通路であったようだ。</p> <p>主屋は大正11年(1922)に登記されており、形式技法等からもその頃の建築とみられる。戦時中には疎開してきた親族が居住していたというが、その後は貸家となった。昭和中期頃には借家人が駄菓子屋とたばこ屋を営んでいたが、昭和後期頃はたばこ屋のみになっていたという。近年は空き家となっていたが、令和5年度の修理後は、貸店舗として活用されている。</p>		
建物特徴 ・ 改修履歴	<p>主屋は東西道路に北面して建つ木造平屋一部二階建、切妻造、棧瓦葺（背面は平板瓦葺）の町家である。正面は、東側に出入口、西寄りに出格子を設けた伝統的な外観である。内部は、東側1間を通り土間とし、その西側に居室を並べる一列三室の典型的な町家の構成である。通り土間は3つに間仕切り、奥にはレンガ造のかまどやモルタル仕上げの古い流しが残る。居室部中央に2階を設ける。</p> <p>昭和中期に、表側の居室を土間に改め、表構えは板戸と戸袋に改めて店舗とした。平成中期頃に、表構えを板戸からアルミサッシに変え、東端半間は鉄板張の壁とした。以上のとおり正面側は大きく改造されていたが、令和5年度、痕跡に基づき正面外観を復原し、表側の土間は居室に復旧した。あわせて、活用のため、間仕切の追加や畳敷から板敷への変更、土間へのトイレ新設などを行った。</p> <p>内部空間の部分的な改変はみられるが、痕跡や建物構成を活かした改修で、当初の姿を伝えながら、現代の人々の価値観や使いやすさを考慮した改修となっている。</p> <p>&lt;改修履歴&gt;昭和中期頃：正面外観を改修、表側の居室を土間に改修 平成中期頃：正面建具をアルミサッシに変更、平成後期頃：背面屋根葺替 令和5年度：正面外観復原、屋根葺替、内部改修等</p>		
活用	貸店舗として活用。		
価値	住人や用途の変化に合わせて改造された部分と、町家の伝統的な形態を残す部分が共存する町家で、奈良町の町家が柔軟に変化を受け入れつつ受け継がれてきたことを伝え、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致の維持と向上に寄与する。		



歴史的風致形成建造物 指定台帳



- 該当建造物
- ↔ 公開範囲

配置図